

# SBE25 TOKYO

Sustainable Built Environment Conference 2025 in Tokyo

サステナブル建築都市国際会議 2025 東京大会

## 開催報告書

2025年12月



# 目次

1. ご挨拶 .....	2
2. 開催概要 .....	3
3. 開催までの経緯 .....	6
(1) 開催準備に係る主要事項	
(2) 大会発表論文の公募・審査	
4. 大会の模様 .....	10
(1) 開会式・基調講演	
(2) 特別セッション	
(3) 学術セッション	
(4) ネットワーキングパーティー	
(5) 閉会式	
(6) サイトビジット	
(7) 学生フォーラム	
5. 大会総括と謝辞 .....	32
6. 資料編 .....	33

# 1. ご挨拶

サステナブル建築都市国際会議 2025 東京大会  
(SBE25 Tokyo)

組織委員会 委員長

伊香賀 俊治\*



サステナブル建築都市国際会議 2025 東京大会 (SBE25 Tokyo) は、3年周期で開催されるサステナブル建築都市世界会議 (WSBE) に先立ち、各国で開催される地域会議 (SBE) のひとつである。20年前に国土交通省の主催、CIB · iiSBE · UNEPの共催で開催された2005サステナブル建築世界会議東京大会 (SB05Tokyo) も WSBE の前身である。

2026年のWSBE26 Melbourne 世界会議に先立つ2025年の地域会議 (SBE) としては、ブラジル (6/4-6)、スイス (6/25-27)、チェコ (9/16-19)、日本 (9/24-25)、スペイン (10/22-24)、ノルウェー (11/24-27) で開催された。

SDGsを達成し、持続可能な建築・都市を実現するためには、ホールライフでのカーボンニュートラル化とウェルビーイングの向上が不可欠である。欧米では、建築物のホールライフカーボン評価の報告義務化や上限値規制を導入する国・自治体が増えてきている。日本では、国土交通省の支援と関連省庁の連携のもとに、ゼロカーボンビル推進会議が設置され、ホールライフカーボン評価ツール (J-CAT) の開発、CASBEEとの連携など、普及に向けた取り組みが加速されつつある。

2024年4月に改正された欧洲連合建築物エネルギー性能指令 (EPBD) によって欧洲連合加盟国は2028年から一定規模以上の新築建築物のライフサイクルカーボン (冷媒等温室効果ガス含む) の算定・開示義務が施行されることとなっ

た。わが国においても建築物のライフサイクルカーボンの算定・開示制度の2028年度から施行に向けて国土交通省の社会資本整備審議会において審議が始まったところである。

一方、ウェルビーイングの向上に関しては、世界保健機関が2018年11月にWHO Housing and Health Guidelinesを公表し、住まいの冬季最低室温18°C以上、住まいの新築・改修時の断熱工事、夏季室内熱中症対策の推進などを各国に勧告した。日本では、「住生活基本計画(2021年改正)」、「住宅品質確保促進法(2022年改正)」、「建築物省エネ法(2022年改正)」などの建築政策に反映され、健康政策に関しては、わが国の21世紀における第三次国民健康づくり運動[健康日本21(第三次)]の基本方針(2023年告示)にも「建築・住宅等の分野における取組と積極的に連携することが必要」と盛り込まれた。

また、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された持続可能な開発目標 (SDGs) も各国・各地域での具体的な取り組みが進んでいるところである。

こうした中で開催された本国際会議には、約30カ国から約300名が参加し、SDGsを達成し、持続可能な建築・都市を実現するための、ホールライフでのカーボンニュートラル化とウェルビーイングの向上を先導する研究成果、政策、技術、実践を共有する盛大な地域会議となった。

関係各位に深く感謝の意を表する。

\*いかが としはる

慶應義塾大学名誉教授／一般財団法人住宅・建築 SDGs 推進センター理事長

## 2. 開催概要

### ■名称

Sustainable Built Environment Conference 2025 in Tokyo (SBE25 Tokyo)

サステナブル建築都市国際会議2025東京大会

### ■大会テーマ

Neutralizing Whole Life Carbon and Improving Well-Being to Achieve the SDGs

ホールライフカーボンのニュートラル化とウェルビーイングの向上によるSDGsの達成

### ■開催趣旨

SDGs を達成し、持続可能な建築・都市を実現することを目指して、ホールライフでのカーボンのニュートラル化と健康・ウェルビーイングの向上を図るため、国内外から参加する研究者、実務者等の間で、高度な研究成果、政策、技術、実践に関する知見を共有する。

### ■開催期間

2025年9月24日(水)～25日(木)

### ■会場

都市センターホテル(東京都千代田区平河町2-4-1)

### ■主催等

主 催 SBE25 Tokyo組織委員会

共 催 一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター、

一般財団法人日本建築センター、一般財団法人ベターリビング、

公益財団法人建築技術教育普及センター、

一般社団法人日本サステナブル建築協会、一般社団法人住宅生産団体連合会、

建築研究国際協議会(CIB)、国際サステナブル建築環境推進機構(iiSBE)、

国際コンサルティングエンジニア連盟(FIDIC)、国連環境計画(UNEP)

協 賛 一般社団法人日本ガス協会、一般社団法人日本建設業連合会、

一般社団法人不動産協会

後 援 国土交通省、厚生労働省、経済産業省、環境省、林野庁、

一般社団法人日本建築学会、公益社団法人空気調和・衛生工学会、

一般社団法人日本LCA学会

事務局 一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター、

株式会社コンベンションリンクエージ(運営受託)

## ■使用言語

英語（一部は日英同時通訳あり）

## ■プログラム（タイムテーブル）

会場である都市センターホテルの3階コスモスホール及び6階会議室において、開会式と基調講演、3つの特別セッション、25のオーラル（口頭発表）セッション、ポスターセッション及び閉会式を行った。ネットワーキングパーティーは5階オリオンで開催した。

Date	Time	Sustainable Built Environment Conference 2025 in Tokyo (SBE25 TOKYO), Venue: Toshi Center Hotel Tokyo								Time
		Reception/Cloak	Main Room	Poster Room	Oral Room 1	Oral Room 2	Oral Room 3	Oral Room 4	Networking Party	
Wednesday, September 24th	9:00	9:00-18:00 Reception/Cloak								9:00
	10:00		Cosmos Hall 1 (3F)	Cosmos Hall 2 (3F)	Room 601 (6F)	Room 604 (6F)	Room 605 (6F)	Room 606 (6F)	Orion (5F)	10:00
	11:00									11:00
	12:00									12:00
	13:00									13:00
	14:00									14:00
	15:00									15:00
	16:00									16:00
	17:00									17:00
	18:00									18:00
	19:00									19:00
									18:15-19:45 Networking Party	
Thursday, September 25th	9:00	9:00-18:00 Reception/Cloak								9:00
	10:00									10:00
	11:00									11:00
	12:00									12:00
	13:00									13:00
	14:00									14:00
	15:00									15:00
	16:00									16:00
	17:00									17:00
	18:00									18:00

なお、大会翌日の9月26日（金）にはサイトビジット（希望者参加の関連施設視察）を実施した。また、大会前日の9月23日（火・祝）には、関連行事として学生フォーラム（参加学生交流会）が開催された。

## ■大会参加者

参加者総数 304名（招待者等を含む。運営事務局及びスタッフを除く。）

うち国内 199名、海外 105名

### 海外参加者の主な国・地域の内訳

中国（22名）、韓国（13名）、マレーシア（10名）、台湾（8名）、  
インドネシア（7名）、タイ（6名）など計30か国・地域

うち論文発表者 146名（オーラル発表及びポスター発表の合計）、国内67名、海外79名

### 海外発表者の主な国・地域の内訳

中国（20名）、台湾（8名）、ネパール（7名）、インドネシア（6名）、  
韓国・マレーシア（各5名）など計29か国・地域

## ■参加登録料

本大会の参加登録料は、以下の表のとおり設定した。早期登録期間を2025年4月1日～6月30日、通常登録を7月1日～8月15日、後期登録を8月16日～9月16日とし、支払いはクレジットカード払いとした。

Category	Early (Until June 30, 2025)	Regular (July 1 - August 15, 2025)	Late (August 16 - September 16, 2025)
General Participant 一般参加者	85,000 JPY	95,000 JPY	110,000 JPY
SBE Partners Participant CIB, iiSBE, FIDIC, UNEP のメンバー	75,000 JPY	85,000 JPY	100,000 JPY
Developing Country Participant OECD開発援助委員会の ODA受取国リストにお ける「低中所得国」以下に 分類される国または地域	65,000 JPY	75,000 JPY	90,000 JPY
Student Participant Ph.D.の学生を含む	35,000 JPY	40,000 JPY	45,000 JPY

なお、参加登録とは別に、9月24日（水）開催のネットワーキングパーティーの参加費を12,000円、サイトビジットの参加費を18,000円に設定し、希望者が参加登録時に併せて申し込めるようにした。

### 3. 開催までの経緯

#### (1) 開催準備に係る主要事項

2024年10月	SBE25 Tokyo組織委員会・第1回会合開催(10月16日)
	都市センターホテルにて第1回委員会を開催し、下記について審議・報告された。 1) 開催基本計画について 2) トピックと論文投稿方法について 3) 当面の広報計画について 4) その他
	運営支援事業者に(株)コンベンションリンクージを選定
	SBE25 Tokyo学術委員会・第1回会合開催(10月30日)
	オンラインにて第1回委員会を開催し、下記について報告・審議された。 1) 開催基本計画 2) 論文募集テーマと投稿方法について 3) 当面の活動計画について 4) 関連事項について(アワードの創設、サイトビジット、海外学術委員の選定等)
12月	大会発表論文の募集を開始(12月16日) 大会での発表論文の応募受付、査読等をオンラインで行うシステムを独自に構築し、応募論文のAbstract(要旨)の募集を開始した。(※論文の公募・審査の詳細は次節に記載)
2025年4月	大会参加者の登録受付を開始(4月7日) 大会の参加受付をオンラインで行うシステムを独自に構築し、募集を開始した。(※参加者数の詳細は2.開催概要に記載)
	SBEシリーズ全体を統括するSBEパートナーズ代表と、SBE25 Tokyo開催に関する覚書(MOU)を正式に締結(4月15日)。
9月	大会発表論文集(Proceedings)をオンライン出版するIOP Publishingと出版について合意(正式契約は10月10日)。
10月	IOP Publishingの専用システムへの論文アップロードが完了。
12月	IOP Publishingより大会発表論文オンライン出版(予定)

\*上記の事項と並行して、共催・協賛・後援の各団体への依頼、基調講演及び特別セッションの登壇者の選考と依頼、サイトビジット訪問先の選定と協力依頼などを実施。

\* 2024年10月～2025年7月の間、学術委員会をオンラインで合計8回開催(査読結果の確認、セッション案作成、司会・副司会の割振り等)。

## (2) 大会発表論文の公募・審査

SBE25 Tokyoにおける論文の公募・審査は以下の手順で実施した。

第1回組織委員会にてSBE25 Tokyoの主テーマと論文投稿カテゴリーについて議論を行った。その結果、テーマについては、

1. Whole life carbon neutralization and reduction of other environmental loads
  2. Health and well-being promotion and improvement of environmental quality
- の二大テーマが設定された。また、論文投稿カテゴリーについても表3に示すように10カテゴリー、21のサブカテゴリーが定められた。

世界の国際学術会議と同様、SBE25 Tokyoも

- 1) abstract 審査
  - 2) full paper / extended abstract 審査
- の2段階審査方式を採用した。

1) abstractに関しては

- a) research background
- b) objectives
- c) methods
- d) results and discussions

を含む構造化abstractの投稿を依頼した。2024年12月16日にabstractの募集を開始し、2025年2月5日に締め切った。その結果、36か国から220件のabstractが集まった。

Abstractの審査方法としてダブルブラインド・ピアレビュー方式を採用した。この方式の採用によって、投稿者と査読者の双方の匿名性を保つとともに個人の属性や所属、過去の業績に囚われることなく、研究内容そのものに基づいた評価を可能とした。国内外の研究者等で構成する学術委員会で行った審査のプロセスは以下のとおりである。

- 1) abstractの募集
- 2) 幹事団による担当委員(2名)へ割り振り

3) 担当委員による査読、採否案の提出

4) 学術委員会における採否の検討

5) 投稿者へ採否結果の通知

投稿されたabstractについて背景や目的、方法、結果、考察、結論が記載されているか、報告内容が本会議の開催趣旨に沿っているか、適切なタイトルになっているか、研究目的は明確か、研究方法は適切か、研究結果は具体的か、考察や結論がしっかりとしているか、発表内容が商業宣伝に偏したものになっていないかなどの観点に基づいて査読を実施した。

Abstract1編につき2名の査読委員が

- 1) strongly recommended for acceptance
- 2) recommended for acceptance
- 3) neutral / further review needed
- 4) recommended for rejection

の4段階評価を行った。2名の査読者のうち、いずれの査読者も

- 1) strongly recommended for acceptance
- 2) recommended for acceptance

とした150編のabstractについては採択することとし、いずれか1名あるいは2名ともneutral / further review neededあるいはrecommended for rejectionとした70編のabstractについては再度学術委員会で慎重に審議を行った。最終的に220編のabstractのうち、215編を採択、2編を条件付き採択(1人で2編のabstractを投稿していたためいずれか1編のみ採択)、3編を不採択とした。

その後、abstract審査採択者にはfull paperあるいはextended abstractの執筆と投稿を呼びかけた。期限の4月30日には合計164編のfull paperとextended abstractが集まった(内訳:full paper 119件、extended abstract 45件)。これらを技術的基準(科学的価値、表現の明確

さ、十分な議論と適切な引用)、品質基準(独自性、新規性、動機付け、適切な長さ)、プレゼンテーション基準(適切な題目、本文、図、表などの表現)などの観点から査読を実施した。

査読者は abstract 審査時と同様、各論文 (full paper, extended abstract) 2名の委員が査読を担った。先述の査読基準に照らし合わせながら、

- 1) unacceptable
- 2) needs improvement
- 3) acceptable
- 4) good
- 5) excellent

の5段階評価を実施した。査読担当委員2名のうち、1名でも 1) unacceptable, 2) needs improvement とした場合は、学術委員会にて一件ずつ内容を確認して採否の検討を行った。審議の結果、合計8件を不採択とした。その後、数名の参加辞退の表明があり、最終的には146件の発表が行われることとなった。

なお、abstract、full paper 等の受付から査読、採否案の提出といった一連の審査プロセスは、本大会のために運営事務局が開発したシステムにより、オンラインで実施された。

(慶應義塾大学 川久保俊)

表1. テーマ別応募／最終発表件数

No.	テーマ
1	Whole life carbon neutralization and reduction of other environmental loads [119/82]
2	Health and well-being promotion and improvement of environmental quality [101/64]

表2. SDGs 別応募／最終発表件数(複数選択)

No.	テーマ
G1	No Poverty [2/1]
G2	Zero Hunger [1/0]
G3	Good Health and Well-being [78/56]
G4	Quality Education [6/2]
G5	Gender Equality [1/1]
G6	Clean Water and Sanitation [7/4]
G7	Affordable and Clean Energy [49/34]
G8	Decent Work and Economic Growth [22/15]
G9	Industry, Innovation and Infrastructure [53/35]
G10	Reduced Inequalities [5/2]
G11	Sustainable Cities and Communities [152/101]
G12	Responsible Consumption and Production [46/27]
G13	Climate Action [98/70]
G14	Life Below Water [3/2]
G15	Life On Land [13/8]
G16	Peace, Justice and Strong Institutions [2/1]
G17	Partnerships For the Goals [18/12]

## ■ IOP Conference Series: Earth and Environmental Science

SBE25 Tokyoにおける公募・審査を経て大会で発表された論文(ただし full paper に限る)は、IOP Publishing がオンライン出版する学術誌「IOP会議シリーズ：地球・環境科学」として、無料で公開される(2025年12月公開予定)。

URL : <https://iopscience.iop.org/journal/1755-1315>

表3. カテゴリー別応募／最終発表件数

1. Emerging Technologies and Materials
1-1. Emerging Technologies, Innovation, and Future Trends [8/7]
1-2. Advanced and Eco-friendly Materials [5/3]
2. Building Performance and Simulation
2-1. Building Physics and Performance Simulation [9/6]
2-2. Energy Efficiency, Conservation, and Generation [17/10]
2-3. Environmental Performance and Assessment [15/11]
3. Sustainable Practices and Life Cycle Approaches
3-1. Life Cycle Thinking and Circular Economy [23/15]
3-2. Sustainable Design and Planning [20/16]
4. Smart Technologies and Automation
4-1. Smart Buildings, Smart Cities, and Automation [9/5]
5. Environmental Quality and Human Well-being
5-1. Indoor and Outdoor Environmental Quality [18/11]
5-2. Human Comfort, Health and Well-being [21/17]
5-3. Wellness and Productive Environments [11/8]
6. Human Factors and Inclusive Design
6-1. Occupant Behavior and Lifestyle Changes [6/5]
6-2. Aging in Place and Universal Design [1/1]
6-3. Social, Cultural, and Inclusive Design [4/0]
7. Human-Nature Interaction
7-1. Human-Nature Connection and Nature-based Solutions [6/3]
8. Climate and Resilience Strategies
8-1. Climate Change Adaptation and Mitigation Strategies [12/10]
8-2. Resilience and Disaster Mitigation [4/2]
9. Policy, Education, and Capacity Building
9-1. Policy Development and Implementation [4/2]
9-2. Education and Capacity Building [4/1]
10. Case Studies and Best Practices
10-1. Case Studies and Best Practices at the Housing and Building Scales [13/8]
10-2. Case Studies and Best Practices at the Urban and City Scales [10/5]

表4. 国・地域別投稿件数と最終発表件数

No.	国／地域	abstract	full paper/ ext. abstract
1	Japan	78	67 (49/18)
2	China	31	20 (16/4)
3	Indonesia	14	6 (5/1)
4	Taiwan	11	8 (2/6)
5	Republic of Korea	10	5 (1/4)
6	Nepal	8	7 (7/0)
7	Australia	6	2 (2/0)
8	India	6	4 (3/1)
9	Italy	7	1 (1/0)
10	Malaysia	6	5 (5/0)
11	United States of America	6	1 (1/0)
12	Bangladesh	3	1 (1/0)
13	Colombia	3	1 (1/0)
14	Iran	2	1 (1/0)
15	Sweden	3	1 (1/0)
16	Thailand	3	2 (1/1)
17	Egypt	2	0 (0/0)
18	Norway	2	1 (0/1)
19	Singapore	2	1 (1/0)
20	Brazil	1	1 (1/0)
21	Finland	1	1 (0/1)
22	France	1	1 (1/0)
23	Germany	1	0 (0/0)
24	Ghana	1	0 (0/0)
25	Greece	1	1 (0/1)
26	Hungary	1	1 (1/0)
27	Israel	1	1 (1/0)
28	Macau	1	0 (0/0)
29	Mongolia	1	0 (0/0)
30	New Zealand	1	0 (0/0)
31	Pakistan	1	1 (1/0)
32	Poland	1	1 (0/1)
33	Romania	1	1 (1/0)
34	Russia	1	1 (0/1)
35	Sri Lanka	1	1 (1/0)
36	Viet Nam	1	1 (0/1)
合計		220	146 (105/41)

## 4. 大会の模様

### (1) 開会式・基調講演

#### ■開会式

都市センターホテル コスモスホール1において、開会式が行われた。伊香賀俊治組織委員会委員長による開会あいさつの後、宿本尚吾住宅局長（国土交通省）による来賓あいさつ、Greg Foliente教授（メルボルン大学）によるSBE代表あいさつ、Thomas Lützkendorf教授（カールスルーエ工科大学）によるiiSBE代表あいさつの順にスピーチいただいた。

伊香賀俊治組織委員会委員長が開会宣言を行い、本会議がSBE世界大会に先立つ地域会議であり、日本がアジア太平洋唯一の開催国である意義を述べた。開催において複数の財団・国際機関・省庁が関与している点を説明し、会議テーマや3つの特別セッションについて紹介した。最後に来賓の宿本局長（国土交通省）への謝意を述べ、2日間の有意義な議論を期待して挨拶を締めくくった。



伊香賀組織委員会委員長

宿本尚吾住宅局長（国土交通省）は、日本におけるサステナブル建築政策の歩みを紹介し、省エネ基準義務化やライフサイクルカーボン算定ツール（J-CAT）の公開、制度化に向けた議論を説明した。住宅断熱と健康の科学的成果にも触れ、隈研吾氏の基調講演への期待を示し

た。脱炭素化は生活の質向上と直結する点を強調し、世界的知見共有を通じ未来につなぐ道筋を作ることへの期待を述べた。



宿本住宅局長

Greg Foliente教授（メルボルン大学）は、世界大会前年に地域会議を連携開催するというSBE会議シリーズの特徴を紹介。建築環境の持続可能性に関わる多様なスケールにおいて、経済・社会・環境・ガバナンスも重要である点が強調された。その後、GBC誕生からの歴史を振り返り、地域課題が世界大会へと継続的に検討される意義を説明し、Whole Life Carbonに関する取り組みの強化を促した。



Foliente教授

Thomas Lützkendorf教授（カールスルーエ工科大学）は、SBE05以来の東京開催について触れながら、建築物は省エネや温室効果ガス削

減のみならず、人が働き生活する“良い場所”であるべきであると強調した。参加者に対しては、建設・都市・インフラが排出するCO<sub>2</sub>削減へのプロフェッショナルとしての貢献を求めた。また、COP30を見据えた行動の加速が必要と述べ、政策決定者の支援や科学・業界・行政の連携の重要性などを訴えた。



Lützkendorf教授

原点として丹下健三による代々木競技場について述べ、建築・構造・環境が統合された先進性への感銘を語った。その上で自身が設計した国立競技場を例に、木材と緑を積極的に用いた「森のスタジアム」という思想を説明。47都道府県の杉を配置し日本の多様性を表現した点、風の通り道をつくる設計、太陽光パネルによる木漏れ日の演出など、環境と調和する建築手法を示した。また、細い木材の活用や伝統工法、間伐材や茅葺きの再生、地域材を生かした地方創生プロジェクトなどを紹介し、循環型社会とウェルビーイングに寄与する建築の重要性を強調した。



隈名譽教授

#### ■基調講演：Return to nature

**隈研吾名誉教授**(東京大学/建築家)は、自身の建築観とSDGsの実践を、実際の画像を示しながら豊富な事例で紹介した。建築家を志した



## (2) 特別セッション

### ■特別セッション1

日時：9月24日(水) 13時30分～16時

会場：3階コスモスホール1

テーマ Improving Health & Wellbeing  
(健康とウェルビーイングの向上)

司会 伊香賀俊治 SBE25 Tokyo組織委員会委員長

副司会 中島 侑江 SBE25 Tokyo学術委員会委員／日建設計総合研究所研究員

講演者・講演タイトル

Distinguished Prof. Philippa Howden-Chapman Univ. of Otago

*The Value of Public and Community Housing for Health and Wellbeing*

Dr. Helen Viggers Department of Public Health, Univ. of Otago

*Housing and Health Evidence in New Zealand*

苅尾 七臣 SBE25 Tokyo組織委員会委員／自治医科大学教授、日本高血圧学会会長

*Hypertension as a Life-Environment Disease: Toward Sustainable Blood Pressure Management*

Assoc. Prof. Steven M Schmidt SBE25 Tokyo学術委員会委員／Medical Psychology, Lund Univ.

*Maintaining independence and wellbeing among older adults: Supportive strategies in the home and community in Sweden*

特別セッション1では、建築環境が人々の健康や福祉に与える影響が、近年ますます注目を集めている背景を踏まえ、住宅の質や都市の構造が、身体的・精神的健康、社会的包摶、さらには気候変動への対応にまで及ぼす影響について、国際的な視点から議論が交わされた。各国の研究者がそれぞれの知見を持ち寄り、学際的かつ実践的なアプローチの重要性が浮き彫りとなった。

#### 基調報告：住宅と健康をめぐる国際的知見

最初に登壇したPhilippa Howden-Chapman 卓越教授(ニュージーランド・オタゴ大学)は、公営住宅の質が住民の健康に与える影響について、長年の研究成果を紹介した。特に「Healthy Homes Initiative (2014-2015年)」によって、子



Howden-Chapman 卓越教授

どもの入院率が大幅に減少した事例を挙げ、温かく湿度が低い住宅の整備が医療費の削減や社会的コストの低減にもつながることを示した。また、住宅政策が社会的平等や文化的多様性の尊重に果たす役割についても言及し、住宅を「文明社会の基盤」と位置づけた。

続いて Helen Viggers 博士（同大学）は、ニュージーランドの住宅の断熱性能と健康の関係について、複数の研究を通じて得られた知見を紹介した。築年数や建築様式による住宅性能の差異が居住者の健康やエネルギー消費に与える影響を明らかにし、特に低所得者層における燃料貧困の深刻さを指摘した。さらに、集合住宅における暖房エネルギー固定化システムの導入とその効果に関する最新の研究にも触れ、今後の都市居住のあり方に一石を投じた。



Viggers 博士

3人目の苅尾七臣教授（自治医科大学）は、住宅内の温熱環境と血圧変動の関係について、詳細なデータをもとに解説した。特に冬季の寒さが高齢者の心血管疾患リスクを高めることが示され、家庭での血圧コントロールにおいて投薬による治療だけではなく、住宅内を温かく保つ環境面での対策も必要不可欠であると訴えた。

また、災害時の仮設住宅や避難所における温熱環境の整備も重要な課題であると指摘した。



苅尾教授

最後に登壇した Steven M. Schmidt 准教授（スウェーデン・ルンド大学）は、高齢者の住環境政策とウェルビーイングへの影響を説明した。高齢者の多くは長期間同じ住宅に居住しており、住宅改修支援や早期のバリアフリー化が自立期間の延長に有効であることが示された。一方、介護人材不足を補う福祉テクノロジーは安全性向上には寄与するものの、自立性や生活の質の向上には十分ではなく、利用者や介護者の意思決定を妨げてしまう点や人との交流が減ってしまう点も課題とされた。また、住宅市場や税制、改修補助制度などの経済政策が住み替えを抑制し、適切な住環境への移行を妨げる場合もあり、物理的・社会的・制度的要因を統合的に考慮した制度設計の重要性を強調した。



Schmidt 准教授

### パネルディスカッション：多様な視点から導き出された共通認識

基調報告に続いて行われたパネルディスカッションでは、建築環境が健康・ウェルビーイングに果たす役割と、異分野・異文化間の連携の課題について議論が行われた。

建築環境の重要性に関する議論において、Schmidt 准教授は、スウェーデンでは住宅の断熱性能が高く冬季の寒さによる問題は少ない一方、適切な住み替えが抑制されている中で家族や高齢者の多様なニーズへの対応が難しい状況があると指摘した。苅尾教授は、気候変動によ



パネルディスカッション

り極端な高温・低温が増す中、住宅性能の確保が個人を保護する最も重要な手段であり、特に高齢者の温度変化への適応力の低下を踏まえた設計の重要性を述べた。Viggers博士は、将来の変化に対応できる柔軟な住宅設計の必要性を強調し、Howden-Chapman卓越教授は、住宅は単なる建築物ではなく、人々の健康、社会的包摂、文化的尊厳を支える「社会的装置」であると強調した。

次に、地域や文化の違いに関する議論では、住宅環境と健康を結びつける普遍的課題と地域特有の課題が整理された。ニュージーランドでは先住民族との歴史的条約を背景に、文化的尊重と自己決定を重視する住宅政策が求められている。一方、温度や湿度といった気候条件、そしてそれらを受けた住宅設計の伝統は地域文化により大きく異なり、日本では築古の既存ストックを中心に夏の暑さを念頭に設計された住宅、スウェーデンでは冬の寒さにフォーカスした住宅が、それぞれ新たな課題を生んでいることが共有された。

さらに、異分野連携の課題については、医学・建築学・社会科学・公衆衛生学など異なる領域の専門家が共通のデータを基に協働する意義が再認識された。血圧変化と室温の関係を例に、建築環境が生理的反応に与える影響を総合的

に捉える日本の試みが苅尾教授より紹介され、ニュージーランドの2人からは、物理学、人類学、経済学など、分野によって同じ言葉でも意味が異なることが多いため、多様な専門家が相互理解と柔軟な思考をもって定期的に対話を重ねることで、共通の言語を築くことの重要性が強調された。最後に、環境負荷削減と住宅の適応性を両立させる設計のあり方についても活発な意見交換が行われ、建築と健康の統合的アプローチの必要性が確認された。



パネルディスカッション

## おわりに：建築環境を通じた持続可能な社会の実現へ

本セッションを通じて明らかになったのは、住宅の環境が、健康、福祉、社会的包摂、そして気候変動への対応において、極めて重要な役割を果たしているという共通認識である。各国の制度や文化は異なるものの、共通する課題と学び合いの可能性があることが確認された。

今後は、科学的エビデンスに基づいた政策形成と、地域住民や多様な専門家との対話を通じた、より健康で持続可能な社会の実現が期待される。本セッションは、そのための国際的かつ学際的な連携の重要性を再認識させる貴重な機会となった。

(日建設計総合研究所 中島侑江)

## ■特別セッション2

日時：9月25日(木) 9時30分～12時

会場：3階コスモスホール1

テーマ Neutralizing Whole Life Carbon

(ホールライフカーボンのニュートラル化)

司会 大岡 龍三 SBE25 Tokyo組織委員会幹事／東京大学 教授

副司会 萩島 理 SBE25 Tokyo組織委員会委員／九州大学 教授

講演者・講演タイトル

Prof. Greg Foliente University of Melbourne

*Sustainable and Resilient Built Environment for a ‘Doughnut’ Future –The Breakthroughs We Need for a Safe and Just Planet*

Prof. Thomas Lützkendorf Karlsruhe Institute of Technology

*Mitigation of GHG emissions in the life cycle of buildings –current actions in Germany & Europe*

今村 敬 内閣官房副長官補付内閣審議官

*Japan’s Policy toward “Decarbonisation” in the Housing and Building Sectors -Reduction of Whole Life Carbon -*

鮫嶋 俊二 東京都環境局気候変動対策部事業支援担当課長

*Efforts of Tokyo to Reduce WLC of Buildings*

山本 有 三井不動産株式会社 サステナビリティ推進部長

*Developers’ Efforts Towards a Zero-Carbon Society*

特別セッション2では、建築物のホールライフカーボン(WLC)削減をめぐる国内外の潮流について、5名の専門家が多角的な視点から議論を交わした。

### 基調報告：持続可能な社会設計と国内外のWLC規制の進捗

冒頭でGreg Foliente教授(オーストラリア・メルボルン大学)は、持続可能な社会設計の新たな枠組みとして「ドーナツ経済学」の概念を紹介した。これは、地球環境の限界(プラネットリー・バウンダリー)を上限、人間社会が必要とする最低限の生活基盤(食料、水、住居、教育など)を下限とする二重の境界を設定し、その間に位置する「安全で公正な活動領域」で人類が繁栄することを目指す考え方である。



Foliente 教授

Foliente教授は、経済規模の拡大ではなく、この“ドーナツの中での繁栄”への転換こそが21世紀の持続可能な目標であると述べ、WLC削減もこの社会的・倫理的枠組みの中で再定義すべきだと強調した。

Thomas Lützkendorf教授(ドイツ・カールスルーエ工科大学)は、EUおよびドイツにおける

るWLC規制の進捗を報告し、EUでの2028年から大規模新築建築物を対象にWLCの算定・開示が義務化され、2030年には全ての新築建築物への拡大予定であることを紹介した。



Lützkendorf教授

今村敬氏（内閣官房副長官補付内閣審議官）は、日本政府が主導する脱炭素政策の最新動向として、省庁連携による制度設計や算定ツール「J-CAT」の導入に触れ、2028年度の制度開始を目指すロードマップが進行中であることが報告された。また、地震多発国としての構造的制約や木造建築の循環利用など日本独自の課題と可能性についても指摘した。



今村氏

国内の先進事例として、鮫嶋俊二氏（東京都環境局気候変動対策部事業支援担当課長）は東京都の取り組みを紹介した。建築物環境計画書制度による建築主への環境配慮を義務付けており、2025年度からの建設段階の排出削減評価が導入されることが紹介された。また、山本有氏（三井不動産株式会社 サステナビリティ推進

部長）は、三井不動産におけるサプライチェーン全体の排出削減事例を示し、資材数量ベースでの算定手法の確立と業界標準化への取組を紹介した。



鮫嶋氏



山本氏

## パネルディスカッション：WLC規制推進の課題と成功への鍵

その後のディスカッションでは、まずWLC規制推進の障壁として、データと専門知識の不足、政策の停滞、インセンティブの欠如が挙げられた。特に、中小企業ではWLC算定が大きな負担となること、規制当局が業界の準備不足を懸念して要件設定に踏み切れないこと、エンボディドカーボン削減は、運用段階の省エネによる排出削減に比べ経済的メリットが乏しいこと、などが課題として指摘された。

一方、WLC削減を成功させる鍵として、段階的アプローチ、データとツールの無償提供、設計プロセスへのLCA算定の統合、そしてイ

ンセンティブと市場評価の重要性が議論された。具体策として、大規模プロジェクトから規制を始めて段階的に小規模へ拡大すること、政府による無償のデータベースの提供、既存の積算ツールへのLCA計算の組み込み、富裕層から得た収益を低所得層の取り組みに回すコストニュートラルな政策、建物の環境性能の「見える化」による競争促進などが提案された。

### 実装における課題と政策の実効性向上に向けて

議論の後半では、WLC規制を実際に導入・実施する上での課題、特に中小企業への対応と社会的公平性の確保に焦点が当てられた。登壇者たちは、科学的根拠に基づく目標設定だけでなく、それを社会のあらゆる層に浸透させる「実装」の難しさについて活発に意見を交わした。

中小企業への適用については、データと専門知識の不足が改めて障壁として指摘され、日本の省エネ基準のように段階的に義務化を拡大するアプローチや、政府による無料のデータベースやデザインツールの提供が必要であるとの見解が示された。

また、WLC削減の推進には社会的公平性の視点が不可欠であり、コストニュートラル政策による低所得層への配慮や、社会的な影響を考慮した評価の重要性が強調され、日本の特殊事情である高い耐震性確保との両立も求められる点が指摘された。

最期に、政策の実効性を高めるため、規制導入の適切なタイミング、WLCの「見える化」による競争促進、エンドユーザーへの経済的メリットの提示、及び炭素排出の大きな建物を金

融リスクと捉える視点の重要性が議論された。セッションの締めくくりとして、日本の建物ストックモデルや不動産・建築業界が収集したデータを活用し、国際エネルギー機関IEAの共同研究プログラム「EBC Annex 89」へ日本が全面的に参加・貢献することへの期待が表明された。



パネルディスカッション

### おわりに：WLC削減に向けた展望

本セッションでは、持続可能な社会設計の新たな枠組みとしての「ドーナツ経済学」の概念を出発点に、建築物のWLC削減をめぐる国内外の潮流と課題について議論が交わされた。今後、日本が国際的な連携を深めながら、国内建築物のWLC削減に向けた取り組みを加速させていくためには、産官学の協働により、本セッションで提示された多岐にわたる論点を踏まえつつ、具体的な行動計画を策定・実行していくことが求められる。建築業界をはじめとする様々な関係者が、WLC削減の重要性を共有し、それぞれの立場から積極的に取り組みを推進していくことが期待される。

(九州大学 萩島理)

### ■特別セッション3

日時：9月25日(木) 14時30分～17時

会場：3階コスモスホール1

テーマ Local Actions to Achieve SDGs  
(SDGs達成に向けた地域の取組)

司会 平田 京子 SBE25 Tokyo組織委員会委員／日本女子大学教授

副司会 川久保 俊 SBE25 Tokyo学術委員会委員長／慶應義塾大学准教授

講演者・講演タイトル

Prof. Chin Siong HO University of Technology Malaysia

*Malaysia's Efforts Towards SDGs, Carbon Neutrality and CASBEE*

上定 昭仁 松江市長

*Creating "Matsue — A Town to Be Proud Of, A Place to Realize Your Dreams" with SDGs as Our Compass*

武智 邦典 伊予市長

*From the Ecoflow Project at Iyo City Midori Elementary School to Community Development*

安成 信次 一般社団法人JBN・全国工務店協会会長／(株)安成工務店代表取締役

*Efforts Toward SDGs Through the Lens of Regional Homebuilders*

久原 英司 一般社団法人JBN・全国工務店協会副会長／(株)エバーフィールド代表取締役

*The Role of Builders Following the Kumamoto and Noto Peninsula Earthquakes*

特別セッション3では、国内外の都市でSDGsアクション(CASBEEを含む)をどう実践しているかという実例が豊富に紹介された。SDGsという世界的目標にどのようにチャレンジしたか、それぞれの都市・対象に適合した形で実践されていくダイナミックな取り組みプロセスと成果が述べられ、新しい可能性への道筋が見え始めた、SDGsをめぐる国際会議のラストにふさわしいセッションであった。

#### 基調報告：マレーシアのSDGs、カーボンニュートラル、CASBEEに向けた取り組み

最初に登壇したChin Siong HO教授(マレーシア・マレーシア工科大学)は、世界ランク84位のマレーシア国が現在取り組んでいるSDGs

への主要政策、ボランタリーなナショナルレビュー・ローカルレビューを簡潔に紹介しつつ、SDGsのターゲットごとの達成状況を概説した。続いて、2050年にカーボンニュートラルを達成するとの目標に基づく、Twelfth Malaysia Plan 2021-2025などの国および各地方の動向の全体像とその具体的な施策・システムの骨格と進行状況を、視覚的にわかりやすく、ロジカルに提示した。

そしてグリーンビルディングに関する世界の優れた評価システム8つを紹介し、そのなかで日本のCASBEEを基にした「CASBEE Iskandar」と呼ぶ認証ツールを開発、市街地・近隣地域・各建築物の3スケールで評価し、その結果を日本と同じように表示するシステムの

概要を示した。それらをジョホールバルなど国内5都市に展開していること、建築主の支払うコストとそのリワードの関係までも考慮しながら詳述した。このCASBEE Iskandarが適用されることで、環境基準が日々の開発行為に組み入れられることの重要性を指摘し、アジアの国からの熱気に満ちたまとめがなされた。



HO教授

続いて上定昭仁氏（松江市長）は、MATSUE DREAMS 2030（2030年の松江のあるべき姿）というゴールに向かう道筋をひもといた。島根県松江市の歴史・伝統・文化をとりあげ、現時点まで一気に概観した。それらの要素を活かして、脱炭素化をリードする地域、SDGs未来都市、松江循環プロジェクトの3点の特徴を有する市の歩みを紹介した。

特筆される活動が具体的に紹介された。まず民間との連携による脱炭素化アクションとして、松江城のお堀を巡る観光船における自動車メーカーとの連携などがあげられる。ブルーカーボンを利用して湖や海のCO<sub>2</sub>を削減する取り組み、日本初の「カーボンゼロ」旅行商品の創出、プロバスケットでのスペシャルカーボンオフセットゲーム、まつえ水素活用協議会の設立、企業と連携したリサイクルアクションなどである。こうした新たな地平を拓く躍動的な取り組みを紹介しつつ、まつえ循環プロジェクトに代表される「市民参加」の重要性を指摘した。



上定氏

3人目に武智邦典氏（伊予市長）が登壇し、「伊予市立翠小学校エコフロー事業の取り組みから地域づくりへ（2006～2025）」というテーマで、1932年竣工の木造校舎である伊予市立翠小学校における「エコ改修検討＋環境教育」という壮大なプロジェクトの全容が紹介された。伊予市指定文化財である築77年の木造校舎を改築ではなく、築100年を目指すこの試みでは、耐震性という建物性能と環境性能のバランスをとりながら延命を図る日本特有の課題解決を図りつつ、建設当初のオーセンティシティーを損なわない改修にこぎつけた。この過程では、環境・教育面等からの学術的な貢献、市民参加、子どもとの協働など多くの要素があった。CO<sub>2</sub>年間排出量の低減が達成され、CASBEEにおける評価でも環境性能は著しく向上していることが客観的に示されている。



武智氏

4組目として2人が登壇した。安成信次氏（（一社）JBN・全国工務店協会会長）は、地域

工務店によるSDGs達成について、自ら経営する工務店のめざす姿、たとえば理想の社会づくりを目指すCSV活動などの歩みをわかりやすく示した。その活動報告では、環境保全、脱炭素、ひと、健康、まち・コミュニティの5つのミッションについての事業内容を定量化している。日々の活動を通して、地域の小規模住宅会社を代表して、地域の職人たちを育成しつつ、地域の材料を用い、地域産業としての「住まい」をつくり続けていくこと、「暮らし」を見守り、建物の維持管理をしていくことを大切にしながら、脱炭素社会とSDGsへのチャレンジをし続けていきたいとの意気込みが語られた。



安成氏

久原英司氏((一社)JBN・全国工務店協会副会長)は、熊本・能登地震復興への地域貢献と題して、全国木造建設事業協会による東日本大震災から大船渡山林火災に至る応急仮設木造住



久原氏

宅3,258棟にのぼる建設実績の中から、木造応急仮設住宅での建設期間短縮、中長期使用、リユースのケーススタディ等を通じた多様な挑戦について、そのディテールをビジュアルで紹介した。

### パネルディスカッション：多様な視点、多様な取り組み

それぞれの基調講演に対する質疑応答が行われ、多様な視点、地域・人材資源を用いた多様な挑戦がさらに詳細に語られたが、そのなかで、専門家だけが挑戦するのではなく、市民参画が加わって大きな成果を生み出すことが共通認識としてあげられた。



パネルディスカッション

### おわりに：Think Globally, Act Locally, and Challenges

本セッションでアジアや日本からもたらされるユニークなチャレンジを共有した。地球の各所で行われる日々のSDGsや脱炭素へのチャレンジのゴールやプロセス、その成果の魅力を学び、それらをシェアすることの大切さを認識する機会となった。そしてそれは、この場にいたわれわれにとって、新たなチャレンジに活かしていくための原動力となるであろう。

(日本女子大学 平田京子)

### (3) 学術セッション

学術セッションは、オーラルセッションとポスターセッションの2部構成であった。これらのセッションも、本大会のメインテーマに沿って、大きく「①ホールライフカーボンのニュートラル化」と「②健康とウェルビーイングの向上」の2本柱で構成された。日程上、特別セッションとオーラルセッションを並行して進める必要があったため、特別セッション1(健康とウェルビーイングの向上)の講演中には「ホールライフカーボン」関連のオーラルセッションを、特別セッション2(ホールライフカーボンのニュートラル化)の講演中には「健康とウェルビーイング」関連のオーラルセッションを設定することで、特別セッションとオーラルセッション双方の活性化を意図した。またポスターセッションは他のセッションとの重複がない昼休憩の時間帯に設定し、より多くの参加を促した。以下にその概要を示す。

#### ■オーラルセッション

日時：9月24日(水) 12:30～25日(木) 17:10  
会場：6階601・604・605・606号室

全25セッションが、1日目の午後から2日目の午後まで、計4会場で開催された。セッションの内訳は「ホールライフカーボン」関連が13セッション、「健康とウェルビーイング」関連が10セッション、両者が混在するセッションが2セッションであり、本大会の2本柱の発表がバランス良く行われた。合計104のオーラル発表がプログラムに割り当てられ、うち96名の発表があった。各セッションにはChairとCo-Chairの2名が割り当てられ、後述するベストペーパー賞とヤングスカラー賞の審査員を兼ねた。

「ホールライフカーボン」関連のオーラル発表で頻出したキーワードとしては、エンボディドカーボン、オペレーションカーボン、ライフサイクルアセスメント、脱炭素、ZEB(Net Zero Energy Building)、カーボンフットプリント、ライフサイクルコスト、サステナブルデザイン、エネルギー効率であった。コンクリートや木材、断熱材など特定の材料に特化した評価研究から、建築物総体としてホールライフカーボンを評価する研究まで多岐にわたっていた。

特に後者に関しては、建築物のホールライフカーボン算定ツール(J-CAT®／Japan Carbon Assessment Tool for Building Lifecycle)を使用したケーススタディも多く、学術界だけでなく、設計事務所やゼネコンを中心に産業界からも数多くの報告があった。また日本の事例紹介の割合が高かったものの、台湾、インドネシア、マレーシア、バングラデシュ等のアジアを中心に、ホールライフカーボンに関連するツールの紹介もあり、日本と各国の事例を比較・議論する絶好の機会となった。その他、建物の新築に関連したCO<sub>2</sub>算定のみならず、改修に関する研究報告も見られた。





「健康とウェルビーイング」関連のオーラル発表で頻出したキーワードとしては、居住者満足度、室内環境の質IEQ (Indoor Environmental Quality)、熱的快適性、公衆衛生、ヒューマンセントリック、ユーザーエクスペリエンス (UX)、オフィス環境、居住環境、PCS (Personal Comfort Systems)、QOL (Quality of Life) であった。

近年の気候変動問題に関連して、暑熱環境(特にヒートアイランド)が健康やウェルビーイングに及ぼす影響に関する研究が多くを占め、一部寒冷環境の研究もあった。その中でも、屋内外の熱的快適性の指標について議論する研究や熱的快適性の範囲を検討する研究が多かった。暑熱環境への対策としての空調システムの研究もあり、蒸暑地域である東南アジアの冷房システムの事例など、気候の差異による空調システムの違いに参加者は興味深く耳を傾けた。建物用途としては、オフィスや住宅の研究が大半であったが、一部宿泊施設等の研究も含まれた。オフィスの研究では、スマートビルディングの文脈で、如何にウェアラブルデバイス等で居住者の状態をセンシングしてウェルビーイングを実現するかについて、方法論まで議論がなされた。中には居住者のウェルビーイング向上のためにロボットフレンドリーな環境を創出するための研究もあった。その他の特徴として、短期的な満足度や快適性のみならず、長期的な健康・ウェルビーイング指標 (QOL、幸福感、ワーク

エンゲイジメント) をターゲットにした研究も見られ、近年のトレンドが如実に現れたものと考えられる。

またオーラルセッション最大の特徴は、「ホールライフカーボン」と「健康・ウェルビーイング」の2本柱に完全に分かれずに、その両立を目指した研究が発表されたことである。近年、プラネタリーヘルスに注目が集まっており、ホールライフカーボン削減が地球温暖化の進行を防ぎ、結果として人々の健康やウェルビーイングに好影響を及ぼすことが知られている。従って、その両立が今後の必須項目であることは論を俟たないが、実現に向けては多くのハーダルがある。今回、大会のメインテーマとしてこの2本柱を掲げたことで、アジアを中心とした各国を巻き込みながら、産官学の多様なステークホルダーによってその実現に向けた議論ができたことは、本大会の成果の一つと捉えている。



オーラルセッション全体を通して、4つのセッションが同時進行している中で、各セッションの参加者は20～60名程度であった。ChairとCo-Chairによるスムーズな進行、発表者の入念な事前準備、聴講者からの熱心な質問も相まって、活発な議論が行なわれ、盛会のうちにオーラルセッションの幕が閉じた。オーラルセッションに携わった全ての関係者に感謝の意を表したい。

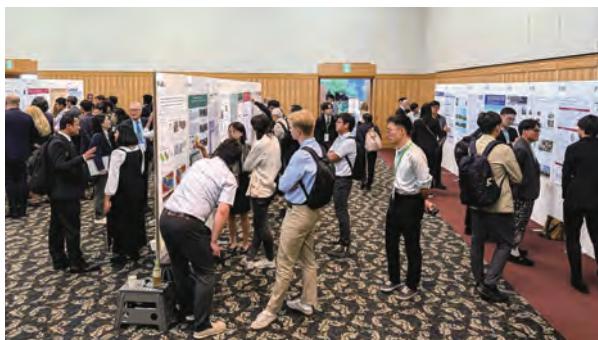
(東京科学大学 海塙渉)

## ■ポスターセッション

日時：9月25日（木）12：15～14：15

会場：3階コスモスホール2

2日日の昼休憩を含む時間帯に3階メイン会場隣のコスモスホール2にて、対面での発表・質疑応答を行うポスターセッションを開催した。



ポスターの掲示は大会前日の9月23日（火）17：00～20：00または1日目の9：00～10：00に行うこととし、その後大会期間中は掲示されたポスターを自由に閲覧できる形式とした。セッション当日は、来場者の集中を避けるとともに、ポスター発表者同士の交流を促進するため、前半の12：15～13：15を偶数番号、後半の13：15～14：15を奇数番号の発表時間とした。

本セッションでは、国内外の大学、研究機関、企業から計49のポスター発表が予定され、そのうち36のポスター掲示および発表が行われた。参加者数は延べ約100名に上り、幅広い分野の専門家が来場し、発表者・参加者間で活発な意見交換が行われた。

「ホールライフカーボン」関連のポスター発表では、ゼロカーボン建築や地域エネルギーマネジメント、建材の環境負荷評価、レジリエンタな都市設計、インフラの脱炭素基準など、環境負荷全体最適化を目指した実践的研究が多く発表された。都市規模や評価手法の高度化についての議論も盛んに行われ、制度設計への貢献

も期待される内容が見られた。

「健康とウェルビーイング」関連のポスター発表では、熱・空気質環境と睡眠や認知機能との関連、ストレス軽減デザイン、高齢者対応居住環境、生活行動と室内環境の関係性、バイオフィリックデザインの心理的効果など、建築・都市環境が居住者の健康と生活の質に与える影響に関する実験・実測調査に基づく多様な研究がみられ、建築環境や都市空間がそのなかに住もう人の健康とウェルビーイングを支える基盤として機能することを科学的に裏付ける成果が多く示された。

また、同会場内には、（一財）日本建築センター、（一財）ベターリビング、（一社）住宅生産団体連合会、（一社）日本サステナブル建築協会、（一財）住宅・建築SDGs推進センター、（一社）日本ガス協会、伊予市、松江市、（株）安成工務店、（株）エバーフィールド、積水ハウス（株）、住友林業（株）、三井ホーム（株）、ミサワホーム（株）の計14の共催・協賛団体及びSDGsの実践自治体・企業によるポスター掲示があった。

ポスターセッション参加者にはGoogle FormによるBest Poster Award投票ページが開場に掲示されたQRコードを通じて公開され、1人最大3票までの投票を行った。

ご参加、ご発表いただいた皆様のおかげで、本ポスターセッションは、持続可能な建築や都市の未来を考えるうえで重要な知見と交流の場を提供するものとなった。ここに深く感謝申し上げる。

（東京都立大学 尾方壮行）

## ■SBE25 Tokyo各賞表彰

SBE25 Tokyo学術委員会は、SBE25 Tokyoにて発表された論文の中から、以下の通りBest Paper Award  
Best Poster Award  
Young Scholar Award  
を選定した。

Best Paper AwardおよびYoung Scholar Awardは、論文ならびにオーラルセッションにおける発表と討論の質に基づいて授与された。また、ポスターセッションにおいて優れた発表、討論を行い参加者から多くの投票を受けた発表者には、Best Poster Awardが授与された。学術委員会が定めた表彰規定は次の通りである。

### Best Paper AwardおよびYoung Scholar Awardの選定方法

1) Full Paper / Extended Abstractのダブルブラインドで行われた審査で査読者2名による評点の平均値が上位20%に入っている場合は受賞候補論文リストに含める

- 2) 上記の基準に該当しない場合でも、Full Paper / Extended Abstractの審査の過程で査読者がBest Paper Awardの候補として推薦した場合は受賞候補の論文リストに含める
- 3) 司会・副司会を務める学術委員会委員2名が論文の著者の発表を聴講して発表の質を最大5点で採点する
- 4) 論文の質(最大5点)と発表の質(最大5点)の平均値が高い論文数点をBest Paper Awardとして選定する
- 5) Best Paper Awardに選定されなかった論文のうち学生が執筆した論文の上位3点程度をYoung Scholar Awardとして選定する

### Best Poster Awardの選定方法

- 1) ポスターセッション参加者に一人最大3票までBest Poster Awardに相応しいと思うものに投票するよう呼びかける
- 2) 得票数が最も多いポスター3点程度をBest Poster Awardとして選定する

(東京都立大学 尾方壮行)

### Best Paper Award Winners

100028 Indoor cold exposure and its long-term effects on clinic blood pressure:  
the COLD Debt Study in Japan

(室内寒冷曝露が診療室血圧に及ぼす長期的影響：日本における寒冷負債スタディ)

Wataru Umishio<sup>1\*</sup>, Yuya Watanabe<sup>2</sup>, Yoshihisa Fujino<sup>3</sup>, Naoki Kagi<sup>1</sup> and  
Tohru Nakagawa<sup>2</sup>

1. Institute of Science Tokyo (Japan), 2 Hitachi, Ltd. (Japan), 3 University of Occupational and Environmental Health (Japan)

100102 Energy performance of Personal Comfort Systems (PCS) on modifying comfort temperature towards energy savings in heating and cooling modes: A Meta-Analysis  
(省エネルギー化に向けた暖房・冷房時の快適温度調整におけるパーソナルコンフォートシステムのエネルギー性能：メタ分析)

Dhammadika Tharindu Prabhath Arachchi Appuhamilage<sup>1\*</sup>, Hom Bahadur Rijal<sup>1</sup>  
1. Tokyo City University (Japan)

- 100184** Planning of Office Building Harmonizing with Nature through Semi-Outdoor Spaces  
 (半屋外空間を通じた自然と調和するオフィスビルの計画)  
 Hajime Iseda<sup>1\*</sup>, Yasin Idris<sup>1</sup>, Yuki Sakai<sup>1</sup>, Kensuke Kanai<sup>1</sup>, Shou Takeo<sup>1</sup>,  
 Satoshi Yano<sup>1</sup> and Misaki Ikeda<sup>1</sup>  
 1. Takenaka Corporation (Japan)

### Young Scholar Award Winners

- 100017** Engaging the Workplace to Address Societal Issues and Expected Human Experiences  
 (社会的課題への対応と人が求める体験を実現する職場づくり)  
 Laurie Aznavoorian<sup>1\*</sup>, Christhina Candido<sup>1</sup> and Djordje Stojanovic<sup>1</sup>  
 1. University of Melbourne (Australia)
- 100186** Bale Bio - A Case Study on Connecting Rural Forestry with Urban Construction for a Regenerative Built Environment  
 (Bale Bio - 農村林業と都市建設を接続する再生型建築環境の事例研究)  
 Jed Long<sup>1,2\*</sup>, Diana Barrera-Salazar<sup>3</sup>, Bondan Petra Diponegoro<sup>4</sup> and Gregorius Jasson<sup>5</sup>  
 1. Cave Urban (Indonesia), 2. University of Tasmania (Australia), 3. Bauhaus Earth (Germany),  
 4. Bamboo Village Trust (Indonesia), 5. Kota Kita (Indonesia)
- 100108** Counting the Cost: Quantifying Potential Urban Economic Losses from Climate-Induced Hazards  
 (気候起因災害がもたらす都市の潜在的経済損失の定量評価)  
 Virginia Pellerey<sup>1\*</sup>, Saba Biglari<sup>1</sup> and Sara Torabi Moghadam<sup>1</sup>  
 1. Politecnico di Torino (Italy)
- 100110** Evaluating heat exposure and vulnerability among older adults using wearable technology to support aging in place  
 (エイジング・イン・プレイスを支援するためのウェアラブル技術による高齢者の熱曝露および脆弱性評価)  
 Jean You<sup>1,2\*</sup>, J H Chan<sup>1</sup>, R Stouffs<sup>1</sup>, B G Gottkehaskamp<sup>1,3</sup> and C Miller<sup>1</sup>  
 1. National University of Singapore (Singapore), 2. Singapore-ETH Centre (Singapore), 3. Technical University of Munich (Germany)

### Best Poster Award Winners

- 100168 P-57** What Draws People In: Behavior settings and Visual Attention on streetscape: Lesson Learned from street stall culture in Southeast Asia  
 (何が人を引き寄せるのか：街路景観における行動環境と視覚的注意——東南アジアの屋台文化からの教訓)  
 Aliffi Majiid<sup>1\*</sup>, Jun Hao Loh<sup>1</sup> and Yen-Khang Nguyen-Tran<sup>1</sup>  
 1. Shimane University (Japan)
- 100199 P-27** Comparative Longitudinal Study on Indoor Environment Factors and Their Impact on Residents' Health in Japanese Nursing Homes  
 (日本における介護施設の室内環境と入居者健康への影響に関する比較縦断研究)  
 Mio Kono<sup>1\*</sup>, Rei Nara<sup>1</sup> and Natsuko Nagasawa<sup>1</sup>  
 1. Ochanomizu University (Japan)
- 100219 P-39** Love Language as A Design Framework for Stress Reduction in Campus Public Spaces  
 (ラブ・ランゲージ理論を応用したキャンパス空間のストレス緩和デザイン手法)  
 Rashif Imaduddin Luqman<sup>1</sup>, N D Perbowanti<sup>1</sup>, A Hasanah<sup>1</sup>, E A Geminastiti<sup>1</sup>,  
 I N Priandani<sup>1</sup>, L Z Mumtaz<sup>1</sup>, N R M Widodo<sup>1</sup>, Q A Firdaus<sup>1</sup>  
 1. Bandung Institute of Technology (Indonesia)

注) カッコ内の論文タイトルの和訳はいずれも仮訳。

## (4) ネットワーキングパーティー

初日9月24日(水)の夜、都市センターホテル「オリオン」においてネットワーキングパーティーが行われた。

伊香賀俊治組織委員会委員長による開会挨拶の後、Philippa Howden-Chapman卓越教授(ニュージーランド・オタゴ大学)による乾杯のご発声で懇談が始まった。

会場のスクリーンに大会初日の模様がスライドショーで映し出される中、大会参加者や招待者など約80名が、終始賑やかな雰囲気の中で交流を深めていった。



Howden-Chapman 卓越教授による乾杯ご発声

中締めでは、Chin Siong HO教授(マレーシア工科大学)によるご挨拶があり、盛会のうちにパーティーは終了した。



HO 教授による中締めご挨拶



## (5) 閉会式

9月25日(木)夕方、都市センターホテル コスモスにおいて閉会式が執り行われた。

はじめに、大岡龍三組織委員会幹事より「会議のまとめと総括」が行われ、全体の参加者数や参加国数の内訳が報告されたほか、会期中に実施されたキーノートスピーチやスペシャルセッションの内容が総括され、本会議が多様な分野・地域の専門家の参加を得て、国際的な議論の場として大きな成果を上げたことが共有された。



大岡組織委員会幹事

続いて、川久保俊学術委員会委員長（慶應義塾大学）より、会期中の写真を用いた「セッションハイライトと振り返り」が報告された。発表では、一般演題の概要や各セッションでの活発な議論の様子が紹介されるとともに、優れた研究・実践を称えるアワード表彰は、後日発表することが説明された。



川久保学術委員会委員長

また、Greg Foliente教授（メルボルン大学）が登壇し、SBE公式パートナーを代表して閉会の挨拶を述べた。さらに、次回大会となるWSBE26 Melbourne世界会議の概要紹介が行われ、次期開催地としての方針やテーマの方向性が示された。今後の国際的な連携と持続可能な建築・都市づくりへの展開に向けた期待が述べられた。



Foliente教授

最後に、伊香賀俊治組織委員会委員長より閉会の挨拶があり、運営委託事業者の株式会社コンベンションリンクージへ感謝の意を込めて花束が贈呈された。

これをもって、本会議は盛会裡に全日程を終了した。



伊香賀組織委員会委員長



主催者、招待講演者等との記念撮影

## (6) サイトビジット

2日間の会期終了後、9月26日(金)にサイトビジットを実施した。東京と横浜近郊の建築関連の施設を見学する2コースのツアーに、28名が参加した。

ツアーの申込は、参加登録システムよりオンラインで受け付けた。また、集客のため広報チラシを作成し、WEBサイト掲載やメール配信で周知した。

### ■実施コース

#### コース1(東京都内)

- ・一般参加者：13名
- ・逐次通訳者：2名
- ・同行者：4名(主催事務局2名、運営事務局2名)
- ・見学スケジュール：

9:30 都市センターホテル 発  
10:30-11:30 日本設計本社  
虎ノ門ヒルズ森タワー  
11:50-13:00 日建設計 東京オフィス  
13:00-14:00 昼食(お弁当)  
14:30-16:00 早稲田大学37号館  
早稲田アリーナ  
16:30 都市センターホテル 着

#### コース2(横浜方面)

- ・一般参加者：15名
- ・逐次通訳者：2名
- ・同行者：2名(主催事務局1名、運営事務局1名)
- ・見学スケジュール：

9:00 都市センターホテル 発  
10:00-12:00 鹿島テクニカルセンター  
12:30-13:30 昼食  
13:30-15:00 大林組 Port Plus  
15:30-16:30 大成建設 技術センター

### ■コース1

サイトビジットのコース1(東京都内)では、日本設計本社オフィス、日建設計東京ビル、早稲田大学早稲田アリーナの3か所を訪問した。

それぞれの施設の特徴は、以下の通り。

#### 【日本設計本社オフィス】

日本設計の本社オフィスは、創業の精神を継承しつつ、総合設計事務所としての新たな挑戦として設立された。虎ノ門ヒルズ森タワー34階・35階に位置し、パノラマビューを楽しめる特徴的な2層円形のオフィス空間を特徴としており、街の「今」に寄り添い、建築・都市・環境計画を通して未来の価値を創造し続けるという、社員の揺るぎないコミットメントを表現している。

[https://www.nihonsekkei.co.jp/think/ideas/report\\_19353/](https://www.nihonsekkei.co.jp/think/ideas/report_19353/)



オフィスからの東京タワーの眺め(日本設計)  
\*オフィス内撮影不可

#### 【日建設計東京ビル】

日建設計東京ビルは、オープンプラットフォーム、カーボンニュートラル、ダイバーシティといった課題に取り組むため、従来の構造を見直して、2階と3階を階段で繋ぎ、外部からの訪問者を3階のコラボレーションスペース「PYNT」に誘導する構造とするなど、1階から4階までを改装して、各種実験空間として使用

している。

<https://www.nikken.jp/ja/dbook/nj202309/html5m.html#page=5>



社員がつくる本棚(日建設計)

### 【早稲田大学37号館 早稲田アリーナ】

早稲田アリーナは、2018年12月に完成した早稲田大学キャンパス内の最新鋭施設で、スポーツイベントや大規模集会の会場として利用されている。半地下に埋められたアリーナは、エネルギー効率と周囲の緑地との密接な連携を重視した設計となっており、自然採光や気候対応システムといった革新的な設備を採用することによりZEB Ready認証を獲得しており、持続可能で多機能な大学建築の新たなベンチマークとなっている。なお、設計は(株)山下設計によるものである。

<https://www.waseda.jp/inst/wcans/campus/building>



屋上の「戸山の丘」(早稲田大学)

### ■コース2

サイトビジットのコース2(横浜方面)では、鹿島テクニカルセンター、大林組Port Plus、大成建設先端技術センターの3か所を訪問した。

それぞれの施設の特徴は、以下の通り。

#### 【鹿島テクニカルセンター】

国内トップゼネコンによる施工管理技術の研修拠点として、構造模型を用いた研修などを実施している。内装や耐震壁に社有林の木材を活用し、エココンクリートを一部採用するほか、緑化技術も積極的に導入することにより、環境性能「ZEB Ready」認証を取得し、研修中のウェルネス向上にも取り組んでいる。

<https://www.kajima.co.jp/news/press/202305/23a1-j.htm>



全体説明の様子(鹿島テクニカルセンター)

### 【大林組Port Plus】

大林組のPort Plusは、2022年に完成した日本初の高層純木造耐火建築物で、革新的な耐火接合部と持続可能な材料を採用することで二酸化炭素排出量を削減しており、環境に優しく高性能な建築のベンチマークとなっている。温かみのあるナチュラルなインテリアとモダンなデザインは、都市環境における大規模木造建築の可能性を示しており、数々の賞を受賞している。

<https://design.obayashi.co.jp/oyproject/>

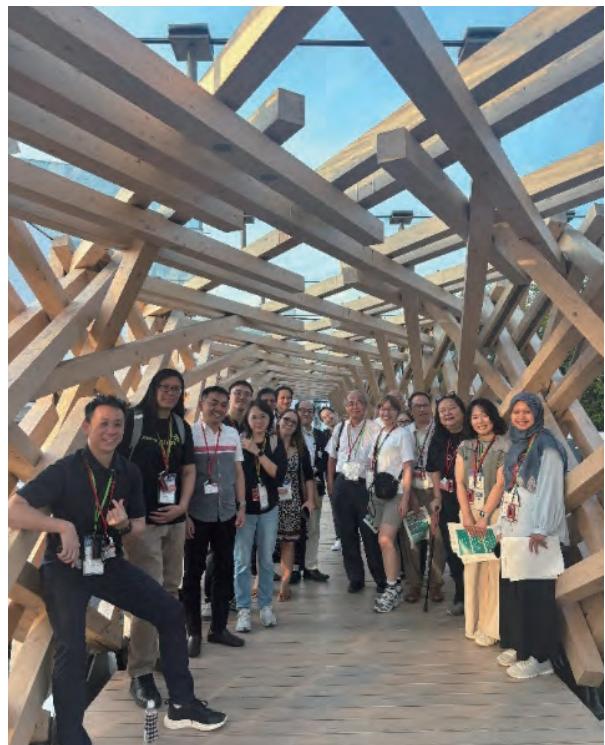


全体説明の様子（大林組 Port Plus）

### 【大成建設技術センター】

大成建設技術センターでは、省エネ・創エネ技術を展示し、ZEB・WEL・ZCB認証を取得した「ヒューマンスペースラボ」、CLT構造の風洞実験施設「ウインドラボ」、そしてサステナブル建築を支える「カーボンリサイクルコンクリート」という、カーボンニュートラルを推進する3つのキーイノベーションを体感できる。

<https://www.taisei.co.jp/english/profile/technology/>



木材と環境配慮コンクリートを使用した人道橋  
(大成建設 技術センター)

両コースとも見学先の魅力度も高く、参加者からの多くの質問に対し、各社から丁寧な説明をいただいたため、参加者の満足度も高かった。

見学させていただいた各社に、深く感謝の意を表する。

\*なお、今回のサイトビジットでは全4コースを準備していた。コース3と4はいずれも茨城県つくば市周辺を見学予定としていたが、最少催行人数に達しなかったため、催行しないことを決定した。コース3と4の希望者には、コース1または2への振り替えをご案内するとともに、返金の対応も行った。

\*見学サイトの選定は、2024年12月にIBECsより関係者に対しサイトの提案を依頼し、2025年3月に選定結果を連絡。

## (7) 学生フォーラム

SBE25 Tokyoの開幕に先立ち、関連企画として学生フォーラム(Student Forum)を2025年9月23日(火)に開催した。このフォーラムの開催目的は、SBE25 Tokyoに参加する学生同士の国際的な交流の場を設けることである。赤坂のレンタルスペース「LAYOUT」にて、約2時間の立食パーティー形式として開催した。

当日は日本をはじめ、中国やマレーシア、ノルウェーなど、世界6か国から修士課程・博士課程の学生が参加した。冒頭に自己紹介の時間を設け、参加者同士で自身の出身や研究テーマをお互いに紹介した。参加者の研究テーマは流体シミュレーションを活用した研究や、建築環境と人々の健康の関係を扱う研究など、多岐にわたっていた。

自己紹介の後の自由な歓談の時間では、研究に関する話題に留まらず、SBE25 Tokyoに参加したきっかけや日本に訪れて体験したことなど、さまざまな話題が挙がった。同年代ならではの碎けた雰囲気の中で、終始活発に交流することができた。

学生フォーラム参加者間の交流は、翌日以降も続いていた。参加者同士でお互いの発表を聴講したり、ポスターセッションの会場で議論したりするなど、積極的に交流を深める姿が見られた。

このように、学生フォーラムは分野を越えた国際ネットワーク形成のきっかけとなった。SBE25 Tokyoの交流活動の一環として役割を果たすことができたと考えている。

学生フォーラムは、私たちにとって普段接点の少ない海外の学生との貴重な交流の機会であった。彼らとの交流からは学ぶことが多く、研究に対するモチベーションを得られた。国際交流の重要性を実感するとともに、学生フォー

ラムで築いたネットワークを将来の研究活動に活かしたいと考える。

最後に、学生フォーラムの企画・運営にあたり、多大なご協力を賜った事務局の皆様、学術委員の先生方に深甚の謝意を表する。

(慶應義塾大学 荒田史朗・今井隼人)

### Today's Schedule

[スケジュール一覧](#)

16:00 Registration / Check-in  
 16:30 Opening  
 16:50 Free Networking  
 17:00 Self-Introductions (~1 minute each)  
     Name • University • Country • One-line topic  
 17:20 Free Networking  
 18:15 Closing & Group Photo

当日のスケジュール



自己紹介の様子



集合写真

## 5. 大会総括と謝辞

サステナブル建築都市国際会議 2025 東京大会  
(SBE25 Tokyo)

組織委員会 幹事 **大岡 龍三\***



サステナブル建築都市国際会議2025東京大会(SBE25 Tokyo)は、2025年9月24日・25日の両日、都市センターホテルにて盛大に開催された。本大会は、世界各地で開催されてきたSBE(Sustainable Built-Environment)会議シリーズの一環として位置づけられ、「ホーライフでのカーボンニュートラル化とウェルビーイングの向上によるSDGsの達成」をテーマに掲げた。総参加者は304名に達し、日本をはじめ、中国、韓国、マレーシア、台湾、インドネシア、タイ、ネパール、インド、オーストラリアなど31か国からの参加があった。

論文投稿は220件に上り、厳正な査読の結果、146件が採択された。会期中は97件のオーラル発表と49件のポスター発表が行われ、活発な議論が交わされた。一般セッションに加え、世界的建築家である隈研吾氏による基調講演が行われ、サステナブル建築の未来に関する示唆に富む講演が聴衆を魅了した。また、「Improving Health & Wellbeing」「Neutralizing Whole Life Carbon」「Local Actions to Achieve SDGs」の3つの特別セッションでは、国際的な

研究者・実務者が一堂に会し、学際的視点からの討論が展開された。さらに、学生フォーラムも開催され、創意に満ちた発表と交流が行われた。

本大会は、持続可能な建築・都市の実現に向けた最新の知見を共有し、アジアを中心とする国際的ネットワークをさらに強化する貴重な機会となった。多様な文化・気候・社会条件を背景とする参加者が一堂に会し、地球規模課題の解決に向けた具体的方策を議論できたことは大きな成果である。

最後に、本大会の開催にあたり、多大なるご支援を賜った後援団体、運営委員、査読者、学生スタッフ、そして国内外の参加者の皆様に深く感謝申し上げる。皆様の熱意と協力により、SBE25 Tokyoは大きな成功を収めることができた。次回のサステナブル建築都市世界大会(WSBE26)は2026年6月にオーストラリア・メルボルンで開催される。今回の成果が次のステージへつながり、持続可能な社会の実現に向けた国際的な連携が一層発展することを期待する。

\*おおおか りょうぞう

東京大学生産技術研究所 人間・社会系部門 教授

## 6. 資料編

### (1) SBE25 Tokyo組織委員会名簿 (2025年9月時点)

区分	氏名	所属・役職
委員長	伊香賀俊治	一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター 理事長、慶應義塾大学名誉教授
顧問	村上 周三	一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター 顧問、東京大学名誉教授
顧問	和泉 洋人	一般財団法人日本建築センター 顧問、東京大学特任教授
幹事	大岡 龍三	東京大学 生産技術研究所 人間・社会系部門 教授
委員	秋元 孝之	芝浦工業大学 建築学部長・教授
委員	浅見 泰司	東京大学 副学長 大学院工学系研究科 都市工学専攻 教授
委員	阿部 俊則	一般財団法人住宅・建築SDGs推進センター 会長
委員	五十田 博	京都大学 生存圏研究所 生活圏木質構造科学分野 教授
委員	井上 勝徳	公益財団法人建築技術教育普及センター 理事長
委員	鍵 直樹	東京科学大学 環境・社会理工学院 建築学系 教授
委員	苅尾 七臣	自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門 教授
委員	川久保 俊	慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 准教授
委員	澤地 孝男	一般財団法人日本建築センター 顧問 国立研究開発法人 建築研究所 客員研究員
委員	下田 吉之	大阪大学大学院 工学研究科 環境エネルギー工学専攻 教授
委員	清家 剛	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻 教授
委員	竹内 徹	東京科学大学 環境・社会理工学院 建築学系 名誉教授
委員	田辺 新一	早稲田大学理工学術院 創造理工学部 建築学科 教授
委員	仲井 嘉浩	一般社団法人住宅生産団体連合会 会長
委員	長澤 夏子	お茶の水女子大学 基幹研究院 教授 ／東北大学大学院 工学研究科 都市・建築学専攻 教授
委員	野口 貴文	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 教授
委員	萩島 理	九州大学大学院 総合理工学研究院 教授
委員	橋本 公博	一般財団法人日本建築センター 理事長
委員	平田 京子	日本女子大学 建築デザイン学部 建築デザイン学科 教授
委員	広田 直行	日本大学 生産工学部 建築工学科 教授
委員	藤野 善久	産業医科大学 産業生態科学研究所 環境疫学教室 教授
委員	古谷 誠章	早稲田大学 栄誉フェロー(元 理工学術院 創造理工学部 建築学科 教授)
委員	堀江 隆一	CSR デザイン環境投資顧問株式会社 代表取締役社長
委員	眞鍋 純	一般財団法人ベターリビング 理事長
委員	吉野 博	東北大学名誉教授

(2) SBE25 Tokyo 学術委員会名簿 (2025年9月時点)

<国内>

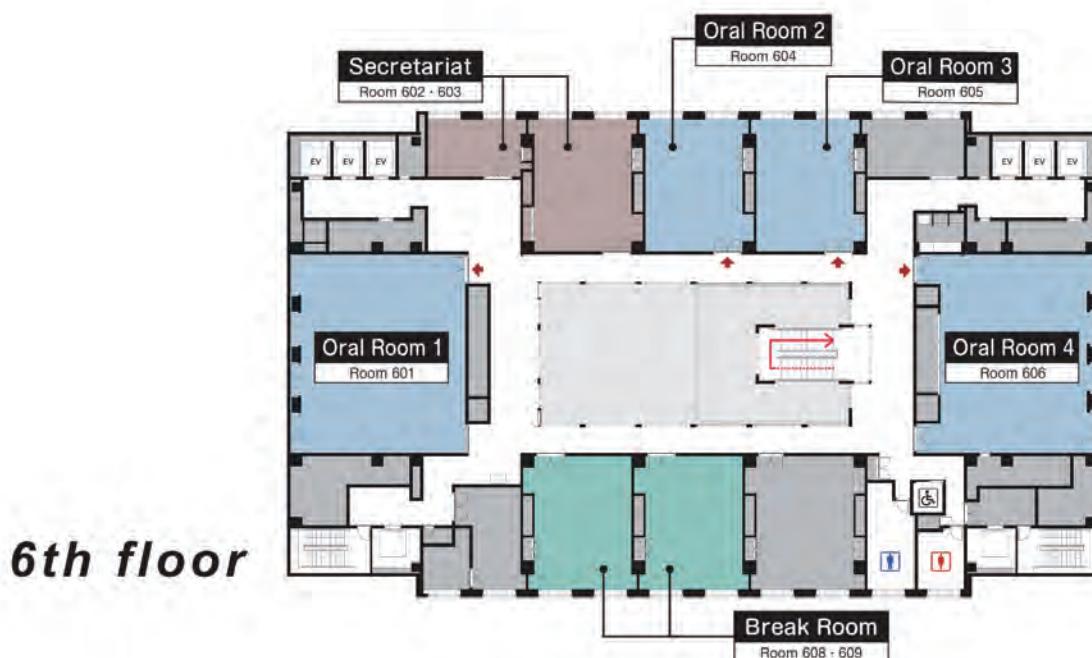
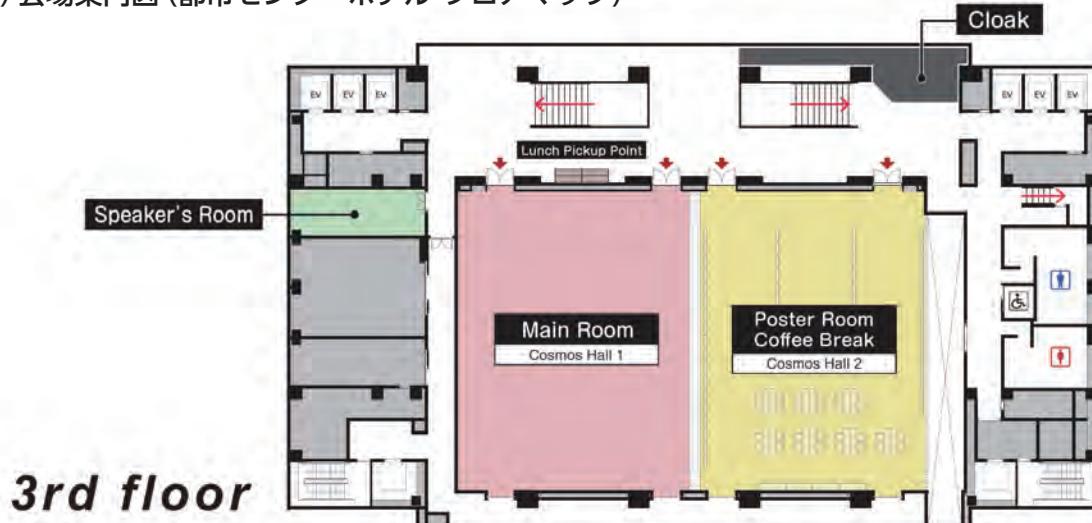
区分	氏名	所属・役職
委員長	川久保 俊	慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 准教授
幹事	海塙 渉	東京科学大学 環境・社会理工学院 建築学系 助教
幹事	尾方 壮行	東京都立大学 都市環境学部 建築学科 助教
委員	荒田 史朗	慶應義塾大学 理工学研究科 開放環境科学専攻 博士課程学生
委員	安藤真太朗	北九州市立大学 国際環境工学部 建築デザイン学科 准教授
委員	磯部 孝行	武藏野大学 工学部 サステナビリティ学科 准教授
委員	今井 隼人	慶應義塾大学 理工学研究科 開放環境科学専攻 博士課程学生
委員	大風 翼	東京科学大学 環境・社会理工学院 建築学系 准教授
委員	加用 現空	法政大学デザイン工学部建築学科 教授
委員	菊本 英紀	東京大学 生産技術研究所 准教授
委員	熊倉 永子	国立研究開発法人建築研究所 環境研究グループ 主任研究員
委員	斎藤 豪	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 特任准教授
委員	佐野 哲史	慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 専任講師
委員	新藤 幹	早稲田大学 創造理工学部 建築学科 助教
委員	芹川 真緒	神奈川大学 建築学部 建築学科 准教授
委員	中島 侑江	日建設計総合研究所 環境部門 研究員
委員	林 立也	千葉大学大学院 工学研究院 創成工学専攻 建築学コース 准教授
委員	樋野 公宏	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 准教授
委員	樋山 恭助	明治大学 理工学部 建築学科 教授
委員	平野勇二郎	国立研究開発法人国際環境研究所 社会システム領域システムイノベーション研究室 主幹研究員
委員	八木尚太朗	国立研究開発法人建築研究所 環境研究グループ 主任研究員

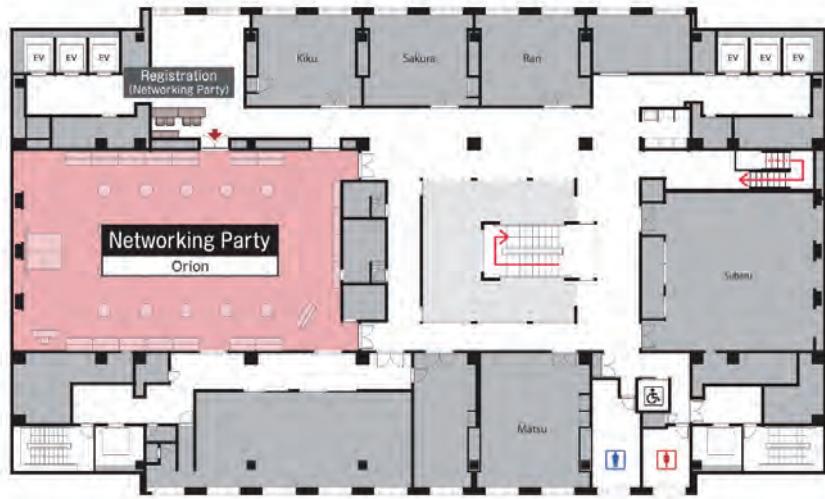
<海外>

区分	氏名	所属・役職
委員	CHOI Wonjun	Associate Professor, Chonnam National University
委員	CHONG Adrian	Assistant Professor, National University of Singapore
委員	CONG Richao	Specially Appointed Associate Professor, University of Kitakyushu
委員	EOM Sunyong	Associate Professor, Hanyang University
委員	GHAFFARIANHOUSINI Amir	Professor, Auckland University of Technology
委員	JUSUF Kardinal Steve	Associate Professor, Singapore Institute of Technology
委員	KAZANCI Berk Ongun	Associate Professor, Technical University of Denmark
委員	KIM Hongjik	Assistant Professor, Hitotsubashi University
委員	LI Rongling	Associate Professor, Technical University of Denmark
委員	LIM Jongyeon	Associate Professor, Kangwon National University
委員	LUO Zhiwen	Professor, Cardiff University
委員	NAM Yujin	Professor, Pusan National University
委員	REN Chao	Associate Professor, University of Hong Kong

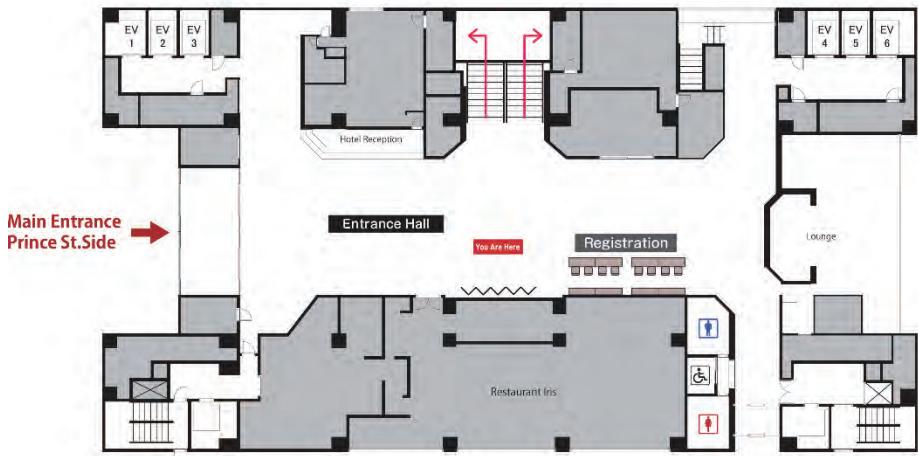
区分	氏名	所属・役職
委員	SCHMIDT Steven	Associate Professor, Lund University
委員	SEO Janghoo	Professor, Kookmin University
委員	SHINODA Jun	Postdoc, Technical University of Denmark
委員	SIKRAM Tanadej	Lecturer, Silpakorn University
委員	STREBLOW Rita	Professor, RWTH Aachen University
委員	SUNG Minki	Professor, Sejong University
委員	SYAFII Imam Nedyomukti	Lecturer, Gadjah Mada University
委員	TAN CL Terrence	Senior Lecturer, National University of Singapore
委員	TSAY Yaw-Shyan	Professor, National Cheng-Kung University
委員	WU Wentao	Senior Lecturer, The University of Canterbury
委員	ZHANG Weirong	Professor, Beijing University of Technology
委員	ZHU Shengwei	Associate Research Professor, University of Maryland

## (3) 会場案内図 (都市センターホテル フロアマップ)





## 5th floor



## Lobby Floor

## (4) 学術セッションのテーマ名と登壇者・発表者

## ■オーラルセッション

セッション名	テーマ	Name
Oral 1	Whole Life Carbon Assessment Tools and Applications (ホールライフカーボンの評価ツールとその応用)	Mao Serikawa*
		Kyosuke Hiyama**
		Yoshiko Ogami
		Masatoshi Kuboki
		Shotaro Yagi
		Kwonye Kim
		Ryo Murakoshi
Oral 2	Comparative Whole - Life Carbon Analyses for Building Performance (建物性能におけるホールライフカーボンの比較分析)	Yaw-Shyan Tsay*
		Kan Shindo**
		GuangZheng Wu
		Anisah Andika Fajar
		Tomoyuki Chikamoto
		Thanyalak Srisamranrungruang
		Hiroaki Nakagawa
Oral 3	Strategies for Building Energy Optimization and Carbon Reduction (建築エネルギー最適化とCO <sub>2</sub> 削減のための戦略)	Weirong Zhang*
		Hayato Imai**
		Qianhui Long
		Yuichi Nakagawa
		Yu Ito
		Hao Liu
		Toshihiro Tara
Oral 4	Sustainable Low Carbon Design and Planning (持続可能な低炭素建築の設計と計画)	Yujiro Hirano*
		Wonjun Choi**
		Shintaro Yanagisawa
		Yi Rong Chen
		Xiyue Hao
		Hajime Iseda
		Husam Abdulfatahharon
Oral 5	Environmental Performance and Assessment (環境性能とその評価)	Tsuyoshi Saito*
		Mao Serikawa**
		Masato Ito
		Andreea Nita
		Virginia Pellerey
		Erekso Hadiwijoyo
		Eilam Sklar

\*司会

\*\*副司会

注) カッコ内のセッションテーマの和訳はいずれも仮訳。

セッション名	テーマ	Name
Oral 6	Innovative Frameworks for LCA and Resource Circularity (ライフサイクルアセスメントと資源循環の革新的フレームワーク)	Kan Shindo* Hideki Kikumoto** Genki Unno Tsuyoshi Kinouchi Yaw-Shyan Tsay Wahhaj Ahmed
Oral 7	Data - Driven Modeling and Performance Benchmarking for Building Energy (建築エネルギーのデータ駆動型モデリングと性能ベンチマーкиング)	Hayato Imai* Yujin Nam** Yongyi Su Rithesh Kumar Vijay Kumar Chajed Sangheon Jeong Saebom Jeon Husam Abdulfatahharon
Oral 8	Resilient Sustainable Design & Planning (レジリエントで持続可能な設計と計画)	Kimihiro Hino* Yujiro Hirano** Husam Abdulfatahharon Tianxing Zhang Yuxaing Wang
Oral 9	Emerging Technologies, Innovation, and Future Trends (新興技術・イノベーション・将来動向)	Genku Kayo* Tsuyoshi Saito** Azusa Mimatsu Yu Goto Md.Salehin Osmani Yasin Idris
Oral 10	Smart Buildings, Smart Cities, and Automation (スマートビルディング・スマートシティ・自動化技術)	Hideki Kikumoto* Kimihiro Hino** Yoshimi Takahashi Julius Mikala Hiroki Takahashi Chih-Yi Lu
Oral 11	Building Physics and Performance Simulation (建築物理と性能シミュレーション)	Shiro Arata* Tsubasa Okaze** Liqi Zhang Xin Zhang Ryan Jonathan

\*司会

\*\*副司会

注) カッコ内のセッションテーマの和訳はいずれも仮訳。

セッション名	テーマ	Name
Oral 12	Case Studies and Best Practices at the Urban and City Scales (都市スケールでのケーススタディとベストプラクティス)	Kan Shindo* Kyosuke Hiyama** Yuet Mei Siow Niki Gaitani En Yi Chou
Oral 13	Thermal Environment, Comfort Metrics, and Physiological Impacts (温熱環境・快適性指標・生理的影響)	Yukie Nakajima* Hongjik Kim** Wataru Umishio Xiongjie Liao Rupendra Subedi Sanjiv Shrestha
Oral 14	Wellness and Productive Environments (ウェルネスと生産性を高める環境)	Tsubasa Okaze* Shintaro Ando** Dulis Dulis Taiki Uchida Yasuko Miyakawa Zhou Li
Oral 15	Occupant Behavior and Lifestyle Changes (居住者行動とライフスタイルの変化)	Steven Schmidt* Satoshi Sano** Shin-ichi Tanabe Ryohei Itsuaki Masahiro Shiota Laurie Aznavoorian
Oral 16	Advanced Ventilation, Insulation & Comfort Systems for Sustainable Buildings (持続可能な建築のための高度な換気・断熱・快適性システム)	Yujin Nam* Shiro Arata** Dhammad Tharindu Prabhath Arachchi Appuhamilage Kakeru Sugimoto Takuro Fujii Anri Toriumi
Oral 17	Inclusive Design and Wellness Frameworks (インクルーシブデザインとウェルネスフレームワーク)	Hongjik Kim* Yukie Nakajima** Takuma Date Yoshiki Namba Cida Ghosn
Oral 18	Advanced and Eco-friendly Materials (先進的かつ環境配慮型の素材)	Tsuyoshi Saito* Satoshi Sano** Keita Hokano Sho Nishiie

\*司会

\*\*副司会

注) カッコ内のセッションテーマの和訳はいずれも仮訳。

セッション名	テーマ	Name
Oral 19	Health Monitoring and Environmental Co-Benefits (健康モニタリングと環境コベネフィット)	Eiko Kumakura*
		Tatsuya Hayashi**
		Jean You
		Hung-Jui Lin
Oral 20	Urban Heat, Adaptation Strategies and Human Well-being (都市の暑熱、適応戦略、人々のウェルビーイング)	Satoshi Sano*
		Shintaro Ando**
		Xinting Liu
		Garima Nepal
		Eiko Kumakura
		Risa Kagaya
Oral 21	Climate Change Adaptation and Mitigation Strategies (気候変動への適応および緩和戦略)	Genku Kayo*
		Hideki Kikumoto**
		Yuyan Li
		Diego Alejandro Alvarez Mindiola
		Yukiko Nakatsu
		Yuxin Zhu
Oral 22	Regenerative Design & Climate - Adaptive Construction (リジェネラティブデザインと気候適応型の建設)	Kyosuke Hiyama*
		Yaw-Shyan Tsay**
		Hiroshi Ito
		Nobutaka Kashimoto
		Jed Lliam Long
Oral 23	Behavioral Patterns and Subjective Comfort in Homes and Offices (住宅およびオフィスにおける行動パターンと主観的快適性)	Shintaro Ando*
		Eiko Kumakura**
		Yusuke Arima
		Jieun Kim
		Ryo Asaoka
Oral 24	Resilience and Disaster Mitigation (レジリエンスと防災・減災)	Tsubasa Okaze*
		Shotaro Yagi**
		Zhiheng Zhou
		Toru Takeuchi
		Kohei Kawabata
		Gergely Csikvari
Oral 25	Structural Carbon Reduction Strategies and Well-Being (構造部材におけるCO <sub>2</sub> 削減戦略とウェルビーイング)	Tatsuya Hayashi*
		Weirong Zhang**
		Daisuke Kadono
		Koki Toyomura
		Ko Murakami
		Takamasa Hasama

\*司会

\*\*副司会

注) カッコ内のセッションテーマの和訳はいずれも仮訳。

■ポスターセッション

ポスター番号	Name
P-01	Liyang Fan
P-02	Farkhondeh Vahdati
P-03	Mourya Seema
P-04	Yoshikazu Gokitani
P-05	Nicolas Giron
P-07	Fong Wee Lim
P-08	Kodai Kawagishi
P-10	Shinji Muraki
P-11	Rikard Sundling
P-13	Honoka Fukuhara
P-14	Voitenko Galina
P-15	Kan Shindo
P-16	Kawanaka Shohei
P-17	Nayanika Bora
P-22	Abidzar Fachri
P-24	Pelagia Karpathiotaki
P-25	Hitoshi Matsushita
P-26	Kai Gao
P-27	Mio Kono

ポスター番号	Name
P-28	Yujiro Hirano
P-31	Sabina Ghimire
P-33	Kazuto Imura
P-35	Roj Shrestha
P-36	Urmila Chaudhary
P-37	Satoshi Inoue
P-38	Yinda Xu
P-39	Rashif Imaduddin Luqman
P-40	Yugo Tsuneoka
P-45	Yu-Chan Chao
P-46	Kento Minami
P-47	Tsuyoshi Kinouchi
P-48	Hiroki Watanabe
P-49	Satola Daniel
P-52	Kittiwoot Chaloeytoy
P-53	Dinh Cong Huynh
P-55	Tomohiro Iida
P-56	Yan Kai Choo
P-57	Aliffi Majiid

※欠番は、発表取り下げ

## ■論文投稿テーマ

- Theme 1: Whole life carbon neutralization and reduction of other environmental loads.
- Theme 2: Health and well-being promotion and improvement of environmental quality.

## ■論文投稿カテゴリー

<b>1. Emerging Technologies and Materials</b>
1-1. Emerging Technologies, Innovation, and Future Trends
1-2. Advanced and Eco-friendly Materials
<b>2. Building Performance and Simulation</b>
2-1. Building Physics and Performance Simulation
2-2. Energy Efficiency, Conservation, and Generation
2-3. Environmental Performance and Assessment
<b>3. Sustainable Practices and Life Cycle Approaches</b>
3-1. Life Cycle Thinking and Circular Economy
3-2. Sustainable Design and Planning
<b>4. Smart Technologies and Automation</b>
4-1. Smart Buildings, Smart Cities, and Automation
<b>5. Environmental Quality and Human Well-being</b>
5-1. Indoor and Outdoor Environmental Quality
5-2. Human Comfort, Health and Well-being
5-3. Wellness and Productive Environments
<b>6. Human Factors and Inclusive Design</b>
6-1. Occupant Behavior and Lifestyle Changes
6-2. Aging in Place and Universal Design
6-3. Social, Cultural, and Inclusive Design
<b>7. Human-Nature Interaction</b>
7-1. Human-Nature Connection and Nature-based Solutions
<b>8. Climate and Resilience Strategies</b>
8-1. Climate Change Adaptation and Mitigation Strategies
8-2. Resilience and Disaster Mitigation
<b>9. Policy, Education, and Capacity Building</b>
9-1. Policy Development and Implementation
9-2. Education and Capacity Building
<b>10. Case Studies and Best Practices</b>
10-1. Case Studies and Best Practices at the Housing and Building Scales
10-2. Case Studies and Best Practices at the Urban and City Scales



<看板類>

・吊看板



・演台囲みパネル



・看板(ホテル玄関)



・フロアマップ(受付横)



・看板(ポスター会場前)



<リーフレット>

**Important Notes**

**Please wear your name card**  
All participants are requested to wear their name card at all times in the conference venue.

**Recording and Photography**  
Audio recording, photography, and video recording are strictly prohibited in all venues.

**Food and Beverage**  
Lunch: Boxed lunches will be available in front of Cosmos Hall 1. Pre-registration required.  
Lunch can be enjoyed in Cosmos Hall 1, 2 and Break Rooms etc. on the 6th floor.  
After lunch, please dispose of your trash in the integrated trash boxes on the 3rd or 6th floor.

**Coffee Breaks**: Coffee and refreshments will be served at the following times and locations:  
Wednesday, September 24 16:00-16:30, Cosmos Hall 2  
Thursday, September 25 17:00-17:15, in front of Cosmos Hall 1

**Cloakroom**  
Location: Foyer, 3F, Toshi Center Hotel Tokyo  
Opening Hours: Wednesday, September 24 9:00-18:00  
Thursday, September 25 9:00-18:00

**Organized by:** SBE25 Tokyo Organizing Committee

**Co-organized by:** CIB, ISBE, IFC, UN-Habitat, JSEC

**Sponsored by:** THE APANAGA ASSOCIATION, 日本建築学会, 不動産協会

**Supported by:** AJ, CIB, ICY, 林野庁

**Secretariat:** Institute for Built Environment and Carbon Neutral for SDGs (IBECs)

SSID: Toshicenter\_Hotel\_Wi-Fi  
Password: toshi19590302

For More Information <https://www.sbe25tokyo.jp/>

# SBE25 TOKYO

Sustainable Built Environment Conference 2025 in Tokyo

**Theme** Neutralizing Whole Life Carbon and Improving Well-Being to Achieve the SDGs

**Dates** September 24-25, 2025 (Wed-Thu)

**Venue** Toshi Center Hotel Tokyo

**Chair** Toshiharu Ikaga  
Professor Emeritus, Keio University  
President, Institute for Built Environment and Carbon Neutral for SDGs (IBECs)  
Chair, SBE25 Tokyo Organizing Committee

<https://www.sbe25tokyo.jp/index.html>

SBE25 TOKYO Program at a glance									
Date	Time	Toshi Center Hotel Tokyo							Time
		Reception/ Cloak	Main Room	Poster Room	Oral Room 1	Oral Room 2	Oral Room 3	Oral Room 4	Networking
Wednesday, September 24th	9:00	9:00-18:00 Reception/ Cloak	Cosmos Hall 1 (3F) / Foyer (3F)	Cosmos Hall 2 (3F)	10:00-18:00 Poster Exhibition				
	9:00-18:00	9:00-11:30 Plenary Session (OPEN) Opening Ceremony, Keynote Speech							9:00
	10:00								10:00
	11:00								11:00
	12:00								12:00
	13:00								13:00
	14:00								14:00
	15:00								15:00
	16:00								16:00
	17:00								17:00
	18:00								18:00
	19:00								19:00
								18:15-19:45 Networking Party	
Thursday, September 25th	9:00	9:00-18:00 Reception/ Cloak	Cosmos Hall 1 (3F) / Foyer (3F)	Cosmos Hall 2 (3F)	10:00-18:00 Poster Exhibition				
	9:00								9:00
	10:00								10:00
	11:00								11:00
	12:00								12:00
	13:00								13:00
	14:00								14:00
	15:00								15:00
	16:00								16:00
	17:00								17:00
	18:00								18:00

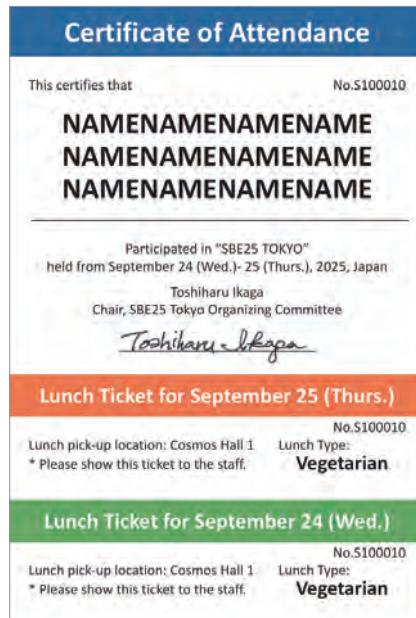
\*Simultaneous interpretation available  
\* Papers for Oral and Poster Sessions are available from your My Page. Please refer to the email for instructions on accessing My Page.

<ネームカード>

(※表)



(※裏)



(※ランチチケット)



書名：サステナブル建築都市国際会議2025東京大会 開催報告書  
編集：SBE25 Tokyo組織委員会  
発行：一般財団法人 住宅・建築SDGs推進センター  
〒102-0093  
東京都千代田区平河町2-8-9 HB平河町ビル  
TEL. 03-3222-6681、FAX 03-3222-6696  
<https://www.ibecs.or.jp>  
発行年月：2025年12月  
非売品  
ISBN 978-4-909107-15-2

## 主 催： SBE25 Tokyo 組織委員会

IBECs 一般財団法人  
住宅・建築 SDGs 推進センター  
Institute for Built Environment and Carbon Neutral for SDGs

一般財団法人 日本建築センター  
The Building Center of Japan

一般財団法人  
リビング  
Center for Better Living

共 催：



JSBC Japan Sustainable  
Building Consortium



JAPAN FEDERATION OF  
HOUSING ORGANIZATIONS



協 賛：

THE JAPAN GAS ASSOCIATION

確かなものを 地球と未来に  
JFC 一般社団法人 日本建設業連合会  
JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

一般社団法人 不動産協会

後 援：



公益社団法人  
空気調和・衛生工学会



林野庁

事務局： 一般財団法人住宅・建築 SDGs 推進センター